

日々挑戦
～変化・成長を
楽しもう！～



株式会社日本ピーエス
人財開発グループ
おかもと りょうこ
岡本 涼子

職場紹介

私は、PC専門業者であるこの会社で、人をサポートする喜びを感じながら、日々仕事に励んでいます。入社後は法務・総務・経理、現在所属している人財開発グループと、事務全般を経験しました。上司やチームメンバーに支えられながら、出産・育児休暇・時短勤務・時節柄テレワークを併用しながら、現在はフルタイムで勤務しています。当社は、「会社の持続的成長」と「社員の幸せ」という長期ビジョンを掲げ、女性の私も仕事と育児を両立しながら、活き活きと働くことができています。

本社のある福井県敦賀市は、私の地元です。2024年には、北陸新幹線金沢―敦賀間が開業します。本社の目の前では、新幹線の高架橋が繋がっていく過程が見られ、架線柱が立ち並び、線となっていききました。

私は、地元の敦賀を拠点に、創業70年の歴史を持ち、新幹線の高架橋な

ど全国に1万6000橋を越える橋を架けてきた会社で、社会貢献ができて誇りに思っています。

百聞は一見に如かず

2022年4月、新工場が完成しました。その新工場に併設し、当社の歴史やPCの特長を学ぶことができる広報施設「橋のミュージアム」もオープンしました。

見学者の受入対応をしている際、終盤の質疑応答では、毎回前向きな質問が飛び交い、PCの魅力が伝わっているなど、直接手ごたえを感じる事ができています。

先日、公私ともに「実体験に勝る学びなし」と感じたことがありました。

小学3年生の息子から「社会の授業で、名古屋市に世界一のプラネタリウムがあると聞き、行ってみよう」という話があり、家族で施設を訪れました。後日息子から、「プラネタリウムで見た、太陽が東から昇って西に沈んだことが、テストに出て書けたんだよ」と、目を輝かせて話してくれました。

社内では、コロナウイルス流行の影響で、インターンシップのWEB開催が続いていましたが、今年は3年ぶりに対面実施が叶いました。2週間の研修を終えた学生さんたちは、「体験が多いこの実習で、有意義な時間を過ごすことができた」と、清々しい表情で帰っていききました。

両者とも、机上での学習が、実体験

を通して知識と繋がった喜びを感じているようでした。その表情そのものが、私のモチベーションになっています。

まだまだ制約のある世の中ですが、これからの時代を担う若者たちに、教室で先生から教わることだけでなく、自ら体験することにより、様々な概念を体得してほしい、またそのサポートをしたいと思っています。

新しい業務へのチャレンジ

私が所属している人財開発Gは、採用や人財育成を担う部署です。教育部門所属当初は、目に見える成果が上から、「自分は役に立っているのだろうか」と、存在意義を考えることもありました。

そんな中、参加した外部講習会の内容が、新入社員研修で応用できるので、マナー研修講師として登壇する機会を頂きました。大勢の人に講義をすることは恐れ多いことでしたが、上司から資料の添削や話し方などをご指導いただき、今では受講者からのアンケート回答が楽しみになるまでになりました。

今年度から担当する採用部門では、まだまだ業務に慣れておらず、業務改善提案をするまでに至っていません。効率化しないからこそ、熱量が伝わることもあると思うっており、泥臭いことも大事にしながら、PCの魅力や建設業の楽しさを更に伝えていけるよう、邁進していきます。



▲ インターンシップ PC版の作成



▲ 橋のミュージアム シアター上映



▲ 北陸新幹線 敦賀車両基地

#005 仕事場拝見

PC橋に魅せられ



株式会社ピーエス三菱
大阪支店土木工事業部土木工事グループ
ひろいけりょうじ
廣池 亮二

PCとの出会い

10年程前の学生時代、材料学研究室に所属し石灰石微粉末を用いたコンクリートの研究をしていました。朝から皆と協力し練り混ぜを行いました。強度のデータ収集からフィードバックの繰り返しでした。そんな研究に明け暮れる日々が充実感をおぼえ、まだまだ没頭したいとの思いから、当時は大学院への進学を考えていました。そんなとき教授からの「PC橋に興味はないか？」との一言がきっかけとなり、少しPC橋の扉を開いてみると、コンクリートの特性を最大限生かせるPC技術は、知れば知るほど「魅力」を感じました。葛藤はあったものの進路の矛先を、大学院から「PC技術に携える建設会社」へ大きく変えることになりました。

PC橋を架ける日々

入社後、大阪支店配属となり現場職員としての歩みを始めました。ベテランの現場所長そして手際よく仕事をこなす職人に叱咤激励されながら仕事

を覚える日々で、早く一人前になりたいとの思いを一番に、忙しいなかでも全力疾走していました。架設され伸びてゆく橋梁の景観美に魅了されるとともにPC橋工事に携われる技術者としての誇りを感じ、モチベーションを高め仕事に挑んだ思い出があります。

気づけば10年、近畿地方を主に8橋の橋梁工事に携わりました。構造形式・規模などに差があれども、どの工事でも完成時の達成感は何事にも替えられない感覚で、まだまだPC橋を架ける日々を過ごしたいと思っています。

最近の仕事

ここ最近では、新名神高速道路のPC橋工事に連続して携わっています。現在は、滋賀県で新名神高速道路の新設橋梁現場に従事しています。この橋梁は、最大支間長が180mもあり、同一構造形式では日本最大級の支間長です。さらに橋脚高が最大97mと非常に高く、河川と国道を跨ぐ区間もあり、難易度が高い橋梁工事です。令和4年9月に工事を本格的に着手し、これからが本番となります。構造図と現地を見ながら橋梁全体の姿をイメージし、これから本格化する架設工事に伴い伸びていく姿を想像すると、身が引き締まるとともに気持ちも高揚します。

仕事のあいま

仕事柄、いろいろな地方に赴任す

る機会に恵まれ、仕事の合間にそれぞれの地方の魅力を堪能してきました。食の魅力では、高知県の食文化がお気に入り、カツオの塩たたきから始まり、ウツボ、チャンバラ貝、川海老と数えきれない程の季節料理を着に、仲間と酒宴に興じた思い出があります。このような体験ができるのも現場職員ならではの特権です。

ここ最近では、コロナ禍で休日は家族と過ごす時間が多く、密を避けて自然豊かな公園などに出向き、家族と一緒に屋外で過ごすことでリフレッシュしています。お気に入りの場所は、絶景つり橋『星のブランコ』（大阪府交野市）です。紅葉の季節はとくにお勧めです。

様変わりする現場

平成から令和に時代が移り行くように、現場環境も様変わりしてきています。昭和全盛期世代の諸先輩から聞く当時の話は信じられない世界で、俗に言われる『3K』の話題には、偽りではとの疑問が湧くほどです。将来に託す重要な構造物造りに携わる人を大事にする環境に変わってきており、今現在も変革が徐々に進んでいると感じます。

もっと多くの方に、働き易いそして働きたいと思う環境のもとでPC橋工事の醍醐味と一緒に味わい、その魅力に触れてもらいたいと思います。



▲星のブランコ(木床版人道吊橋)



▲城陽第二高架橋西でのセグメント架設状況



▲現在、従事している信楽川橋の作業現場

入社してから



株式会社安部日鋼工業
工事部工事課

まつもと ひろゆき
松本 大幸

はじめに

私は幼い頃からものづくりをするのが好きで、大学では土木分野を専攻しました。就職活動時に当社に入社した先輩の話聞き、自分が仕事で関わったものが地図に残ることに魅力を感じて入社しました。

入社後、橋梁工事を担当する部署に配属になりましたが、大学の授業ではPC橋についてほとんど勉強しておらず「プレテンション方式」と「ポストテンション方式」の違いもわかりませんでした。現場に赴任してからは日々の業務を覚えることに手一杯なことに加えて、炎天下での慣れない作業や職人さんと信頼関係を築くことが大変でした。ときには失敗したことで手直しが必要となり、怒られて悩んだことも多々ありました。

それから8年間、新設PC橋梁に11橋携わってきました。その中で特に思い出に残る現場を紹介します。

現場で実感したこと

長崎県大村市にある現場に赴任しました。この現場は、ポストテンション方式の単純T桁橋です。現場環境にも慣れ心にゆとりができた頃に初めて施工の計画から携わった現場になります。作業ヤードが狭いため、田を借地して地盤改良を行いました。45mの主桁を6本現場製作後、横取り装置を使用して横取りを行い、360tクレーン2台による相吊りで特殊車両に積み込み架設位置まで運搬し、550tクレーン2台の相吊りにより架設を行いました。初めて見る主桁の大きさに恐怖を覚えながらも無事に製作・横取り・運搬・架設が完了したときの達成感は今でも忘れられません。大小関わらず、どのような構造物でも日々の安全確認や正確な作業の積み重ねが大事だということを実感しました。

休日の過ごし方

入社当時は特に趣味がなく身体を休めたり、友人との時間に使っていました。入社5年目の頃に先輩に沖釣りに誘っていただきました。最初は、なんとなくで始めたので一匹も魚が釣れない日もありました。今では海を見て大自然を感じてリフレッシュし、どのように魚を釣るかや試行錯誤しながらルアーを考えており、すべての力を出し

切って大物が釣れた時にはとても喜びを感じます。思い立ったら妻や友人とも浜釣りに出かけています。今では趣味のひとつとなっており、自分で沖にも出られるように船舶免許まで取得しました。最近では、子供が生まれたので家族で釣りに行ける日を楽しみにしています。趣味をもったことが現場にも活かされて以前は口下手でしたが、現場が移ったときにも先輩方や業務関連の方とも打ち解けることができます。

最後に

昨今、将来に漠然とした不安を感じる方も多いと思います。工事現場での勤務は、最初は特に体力を使いますし責任もある仕事のなか知人や家族がいないうらさがりますが、生活リズムがスムーズに回り出すと楽しめるようになります。入社してから3・4年目は長崎県の大村市に滞在していました。休日はランタン祭りやハウステンボスなど観光を楽しみ、6年目の沖縄では釣りを楽しみました。多忙な業務や頻繁な環境の変化もありますが、このように赴任先を楽しむことができるのも現場ごとに勤務地が変わる職業の魅力だと思います。この記事を読んで少しでもPC業界に興味をもつていただければ幸いです。私もまだまだ知識不足ですので、これからも経験を積んで、社会に貢献できるように励んでいきたいと思っています。



▲ 大島付近にて



▲ 現在の現場(着工前)



▲ 思い出の現場(架設状況)